



いわて・みやぎ・ふくしま 便り

No. 5

2019 年
8 月 28 日発行

日本生協連
組合員活動部

8 月の「いわて・みやぎ・ふくしま便り」をお送りします。

東日本大震災から 8 年が経ちました。これからも復興に向けて歩いていく被災地の皆さまに寄り添って、全国から支援活動を行っていきましょう。



移動店舗「にこちゃん号」頑張っています！



移動店舗「にこちゃん号」は全国の生協の支援といわて生協組合員の募金により、2012 年から開始しました。現在も 4 台の販売車が、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市の災害公営住宅など 66 か所をまわり、被災地で買い物支援の取り組みとして運行しています。

岩手県の被災地では災害公営住宅の完成に伴い、仮設住宅の撤去が進んでいます。移動店舗「にこちゃん号」もその都度コースを見直し対応してきましたが、さらに転居が進んだことから、ご利用者や地域のみなさんの声を反映し、7 月 1 日から大船渡市、陸前高田市のコースを変更しました。

紹介している写真は、新しく販売場所になった陸前高田市の脇の沢団地。陸前高田市で最後に完成した災害公営住宅です。到着すると「待ってたよ！」「ほかの店の買い物バスも 1 週間に 1 回あるけど、これで買いだめしなくて済むからうれしい」とお買い物を楽しんでいました。

2018 年度は 6 万 6 千人の利用があり、8 年経つなかで高齢化が急速に進み、被災地のくらしを支える役割を担っています。



(多くの方が心待ちにして集まってくださいました)



(「これ買ったよ」と買い物しながら会話は
はずみず)



(商品を玄関まで運ぶお手伝いが
喜ばれています)



組合員が福島を訪問しました



みやぎ生協では現状を学び支援を呼びかけるため、福島訪問を継続して行っています。これまでは主に活動のリーダー層の方々が訪問していましたが、今年は広く広報誌などで参加を呼びかけ、「報道が少ないため現状を知りたい」と高い関心が寄せられました。

7月25日、抽選により小中学生4名を含む37名のメンバー（組合員）が福島を訪問。コープ東北産直の果物などを生産している「産直センターふくしま」や圃場を訪れ、生産者の方から安全な作物を提供するための取り組みなどのお話を伺いました。午後には、富岡町夜の森付近のほか、大熊町や双葉町、浪江町などの沿岸部を視察しました。



（圃場の中で生産者の方からお話を伺う参加者）

参加者からは「実際に見るのは、報道で聞くのとは全く違い、ショックを受けた」「地元の方ならではの話をたくさん聞けて貴重な時間だった」などの声のほか、今後に向けて「福島の果物・野菜は安全だと伝えたいと思う」「電気を使う時は本当に必要か考えながらスイッチを入れたいと思う」「原発について学ぶことも支援のひとつだと感じた」「子どもたちにもっと伝えたい」など、支援につなげたいとの思いが寄せられました。



福井県民生協のみなさんが宮城に来訪されました



8月7日～8日にかけて、福井県民生協から小学生1名を含む組合員と職員のみなさん計9名が「みやぎスタディツアー」として来訪。4年目の取り組みですが、今年は介護事業所の若手職員の方など、「東日本大震災当時は小・中学生で、現実で起きているとは思えない映像をニュースで見た記憶がある」という方も参加されました。

名取市「閑上の記憶」や「震災遺構・仙台市荒浜小学校」、石巻市「旧大川小学校」などを語り部のお話を聞きながら視察したほか、みやぎ生協震災学習・資料室での学習や、石巻市・みやぎ生協蛇田店でふれあい喫茶参加者やボランティアと交流しました。

参加した方からは、「被災しているのに、他の被災した人たちを支えるなんて、とても前向きに考えていると思った」「ニュースでは被災者数などの数字でしか見れていなかったが、実際に被災された方の話を聞くと、1人1人物語があることを実感した」「行動と判断が大事だとしっかりと伝えたいと思う」「介護で命と向き合う仕事をする中に生かせることもあった。職員にも「命」の重さ、大切さを伝えたい」などの声が寄せられました。



（閑上の慰霊碑に児童クラブで折ってくれた千羽鶴を届けてくれました）



（蛇田店に介護事業所の利用者さんから復興支援タオルをいただきました）



「東日本大震災学習・資料室」が「震災伝承施設」に登録



「震災伝承施設」とは、東北地方整備局と被災県などで作る「震災伝承ネットワーク協議会」が、東日本大震災の被害や教訓を後世に伝えるための施設として募ったもので、宮城県内で 100 件が登録されています。みやぎ生協「東日本大震災学習・資料室」は県内第一号として登録され、8 月 2 日、登録証が交付されました。

「東日本大震災学習・資料室」では、被災状況や当時の新聞、支援の様子を写真パネルで紹介しているほか、円柱に地域別の津波の高さを表示し、実際の高さを体感することができます。どなたでも自由に見学することができます。ぜひ一度ご覧ください。



(津波の高さを体感できる柱)



2019 ピースアクション in ヒロシマ 虹のひろば

～ふくしまの現状をお知らせしました～

8 月 4 日から 6 日に行われた 2019 ピースアクション in ヒロシマに、親子 4 組を含む 9 名で参加しました。8 月 5 日に広島県立体育館グリーンアリーナで開催された「虹のひろば」には、全国から 1300 人が参加しました。その第 2 部「みんなのひろば」では、東日本大震災復興ブースにおいて「コープふくしまが震災後取り組んできたこと」と題し、陰膳方式による放射性物質摂取量調査結果、富岡町「夜の森のさくらプロジェクト」のさくらマップのパネル展示を行いました。また、「避難者訴訟第 1 陣公正で正義ある判決を求める署名」と「生業を返せ、地域を返せ！福島原発訴訟原告団」の 2 つの署名にご協力頂きました。多くの方々に訪れていただき、福島の現状をお話することができました。



(虹のひろば展示の様子)



大豆畑の草取り作業をしました～ふくしま大豆の会 畑の学校～

「畑の学校」2 回目の「草取り」は 8 月 3 日、JA 夢みらい管内（白河市）の畑で 46 人が参加して行われました。本来であれば今ごろ開花期に入る大豆は、長雨などの影響で少し生育が遅れ気味とのこと。それでも照り付ける夏の日差しに葉をいっぱいに広げ、すくすくと育っていました。

畝の間の草は、事前に刈ってあるので、機械では刈れない株と株との間の草を、みんなで手作業で抜き取りました。草も大豆に負けまいとがっしりと根を張っていて、なかなか手に負えません。一緒に抜けてしまいそうになる大豆に気を付けながら、枝の分かれているところに付く、紫色の大豆の花のつぼみを観察しながら、みんなで草と格闘しました。

この日は最高気温が 30 度を超える真夏日だったため、体調を考慮して、畑での作業は短時間で終了し、近くの JA 集荷場へ移動してスイカ割りをしました。子どもたち全員が元気に棒を振り下ろし、割

れたスイカをみんなで頬張りました。さらに、冷えたキュウリも、大豆の会のおいしい味噌でいただきました。

午後のお楽しみ企画は、福島県文化財センター白河館「まほろん」の見学。恒例となった大豆の会の味噌を使った味噌おにぎりのお弁当を食べて、火おこしに挑戦。夏休みの思い出もできました。次回は収穫と収穫祭。大豆の成長と豊かな実りを願いつつ帰途につきました。



(草に格闘する参加者たち)

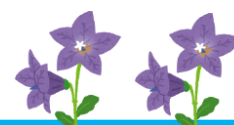


(参加者の集合写真)



こども保養プロジェクト (コヨット!) 活動報告

～福島県 リゾートイン・ぼなり～



開催日 2019/7/6 (土)～7 (日)

保養先 福島県 中ノ沢温泉「リゾートイン・ぼなり」

参加者 11家族 (計27名)、大阪からのご家族、スタッフなど約60名

1日目「初日は、大阪いすみ市民生協プレゼンツ・・・たこ焼き体験」

・たこ焼き作り体験、森遊び、木工クラフト、アロママッサージ体験



(たこ焼き作りの様子)

リゾートイン・ぼなりに到着後、大阪のご家族と福島のご家族でグループを作り、皆さんで仲良くたこ焼き作り体験を行いました。具材は、子供たちの好きなもの(タコ、ウィンナー、コーン、溶けるチーズ、桜えびなど)を入れました。最初は、熟練した大阪の方々から手ほどきを受けていた子供たちでしたが、焼き加減やひっくり返すコツをつかむと、夢中になってたこ焼きを焼いていました。それぞれのグループで、和気あいあいと楽しんでいる様子が印象的でした。

その後、子供たちは森遊びや木工クラフトを楽しみました。木工クラフトでは大作が多く、刀・巣箱・大きな箱などが作られていました。一方で、保護者はアロママッサージ体験やハーブティーで日頃の疲れを癒しました。アロママッサージ体験を通して打ち解けた皆さんは、笑い声に溢れていました。夕飯時には恒例の自己紹介を行い、和やかな雰囲気の中美味しい夕食をいただきました。

2日目

・マイ箸作り体験、流しそうめん体験

まずはマイ箸作り体験を行いました。材料の竹選びでは、参加者がしっかりと吟味している姿が印象的でした。幸いにも、目玉イベントの流しそうめん体験を始める頃には天候が回復し、晴天に恵まれました。全国から寄せられた7種類のそうめん250人前(去年の2倍)を3つの竹のレーンに流しました。

子供たちは歓声を上げて、次々とロー杯にほおばっていました。そうめんの他にも、小女子・きゅうり・ミニトマト・ウズラの卵・わかめ・こんにゃく・みかんの缶詰・モッツアレラチーズ・ーロゼリー・アポロチョコなどを流し、大好評でした。皆さん遊び心をくすぐられ、とてもにぎやかな流しそうめん体験になりました。



(流しそうめんの様子)

《食材をご提供いただいた皆さま》

- ・生活協同組合ウラコープ「島原手延べそうめん」
- ・みやぎ生活協同組合 「白石温麺・三陸のだし香るつゆ」
- ・富山県生活協同組合「大門そうめん」
- ・生活協同組合パルシステム茨城 栃木「国産小麦のそうめん」
- ・生活協同組合コープえひめ 「五色そうめん・愛媛県産みかん缶」
- ・生活協同組合コープかがわ「小豆島そうめん・おいり菓子」
- ・生活協同組合おかやまコープ「かも川手延べそうめん」

ご協力ありがとうございました。引き続き、ご支援いただければ幸いです。



発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

百瀬

